

バイオマス利活用施設の概要

作成日：平成 19 年 8 月

作成者：(株)エックス都市研究所

	【施設名称】 エコ・プロジェクト（富士バイオフィーム併設）
	【事業主体】 米久（株）
	【所在地】 静岡県沼津市
	【運転開始年】 平成 16 年
原材料および利用量	食品廃棄物、食品残さ、汚泥（発生量合計 1,980 t /年） キノコ廃菌床（発生量 1,824t/年）
生産物（種類）	肥料：1,518 t /年
利用方法	契約野菜農家へ（箱根）、社内農園へ（富士宮市）、御殿場高原サッカー場やゴルフ場へ。
導入目的・経緯	幅広く地域・社会に密着・貢献できる企業を目指す。
設備仕様	テント型堆肥施設（1,320 平方メートル）、自走式コンポストターナー、回転式フォークリフト、切り返しホイールローダー、ふるい機、運搬車両（8.8tトラック、4tダンプ） 施設処理能力：1,980t/年
稼働状況	24 時間 / 日
経済性関連データ	施設整備費 1 億 7 千万円 補助事業名：食品リサイクル推進モデル事業 補助主体：国・県
導入効果	これまで自社内の各工場等から出る食品廃棄物や使用済みの菌床を燃焼処理及び業者に委託して処分してきたものを、自社内で再生利用を行うことで、自己完結型の食品リサイクルのシステムが確立できた。
運営上の課題	今後は、いかにランニングコストを抑えて、良質な堆肥（肥料の安全性を含む）生産を行うかが課題となっている。また、生産された堆肥は、契約農家及び自社内だけの消費では限界があることから、販路の確保が課題となっている。
備考・参考資料	関東農政局 都県別バイオマスの取組事例